



男色大鑑

幸田露伴自筆書入本

特別  
~ 13  
4190



47  
113  
4190

岡田眞  
之藏書

47 7984



新

いとこら  
人ごの目月  
合を  
懐  
追  
道  
て  
を  
の  
金  
ア  
毒

いとこら  
人ごの目月  
合を  
懐  
追  
道  
て  
を  
の  
金  
ア  
毒

仕内見あそびては、  
初夏の夜、  
高に軒、  
門の約、  
と紙、  
空、  
方、  
よと中、

新ち出の國、  
次第に中、  
まゝ、  
むと中、  
か、  
さ、  
た、  
自、  
の、  
人、  
は、  
お、









二  
題

被<sub>レ</sub>る<sub>二</sub>或<sub>レ</sub>天<sub>一</sub>三寸

申<sub>レ</sub>上<sub>二</sub>申<sub>レ</sub>上<sub>一</sub>申<sub>レ</sub>上<sub>一</sub>

学

世<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>州<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>る<sub>二</sub>も<sub>一</sub>又<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>ゆ<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>一<sub>二</sub>又<sub>レ</sub>次<sub>一</sub>  
 郎<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>所<sub>一</sub>男<sub>レ</sub>報<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>市<sub>レ</sub>旁<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>が<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>  
 捨<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>互<sub>レ</sub>右<sub>一</sub>へ<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>中<sub>一</sub>に<sub>レ</sub>母<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>身<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>捨<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>十三<sub>一</sub>年<sub>一</sub>  
 泪<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>包<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>紙<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>目<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>切<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>ると<sub>レ</sub>父<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>妻<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>  
 作<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>新<sub>レ</sub>ある<sub>レ</sub>街<sub>一</sub>へ<sub>レ</sub>吉<sub>レ</sub>村<sub>一</sub>安<sub>レ</sub>村<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>名<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>替<sub>レ</sub>換<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>玉<sub>一</sub>柳<sub>一</sub>川<sub>一</sub>  
 の<sub>レ</sub>名<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>舟<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>善<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>葉<sub>一</sub>師<sub>一</sub>と<sub>レ</sub>名<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>替<sub>レ</sub>換<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>玉<sub>一</sub>柳<sub>一</sub>川<sub>一</sub>  
 軍<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>海<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>女<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>身<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>替<sub>レ</sub>換<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>  
 果<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>念<sub>一</sub>を<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>人<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>位<sub>一</sub>に<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>げ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>  
 さ<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>葉<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>陰<sub>一</sub>の<sub>レ</sub>父<sub>一</sub>母<sub>一</sub>に<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>也<sub>一</sub>

卷二

形見ハ式尺三寸

中井孫母記 片岡徳助 流后回柳川 高野計

世小を州のたぼるも又出来ぬと相ぞら一又次

郎との海男 銀也とて何れもと市房とがれ

拾りり反たは中へ母の身と續孫十三氣

涙は包み紙と目と切て是と見ると父を妻と

作下新ある味と古村安村と名を替筑後の玉柳川

のちろふ身と一善向く見葉師とるを知一葉中

軍の指しをしと信せとて妻細ふと女の方を

ぐろや身をせぬ身と心は格めし軍替も

お果内みの念に成人の様は取らぬと止

させ葉馬の院の父母に一人に喜しと

さ

学

それより十歳以上、小筑後の筆と云ふは、  
我を年十八女也、母を遺つて、幼少の  
うさまはと云ふ、  
小作。此の四月十七日、武原上野宮前、母方乃  
婿とあゝてあり、小松西宮の宗より、  
と作せらる、  
つづき、  
船のまに、  
我は、  
ぬ人、  
或、

これ胸のつとみ、  
と、  
人、  
小、  
の、  
そ、  
い、  
下、  
空、  
一、















物とて其の語... 又乃世れあり... 越く十一日... 三百年の神... 分と結... 何れ...

卷三

いろみこい山吹乃盛

四年の道... 何れ...

長尾... 野... 侍田川... 首尾... 滝... 山吹... 何れ...

市爲堂とえそて換目らりき坊を二人めりてきられし。  
新嘗の味を多しとては、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
美の味を多しとては、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
王受せん小生を、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
あはれ門は、入つて、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
あつて、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
あ分のあつて、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
も針もあつて、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
南横山、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
年の十月、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
もあつて、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
圓の守、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。

極りぬ何玉とて、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
之は諸君を、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
金川、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
る、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
ふ、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
を、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
く、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
法、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
ふ、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
し、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。  
新、此の味は引つて、大なるあぬぬ力そを。



の龍帝に尺立申されおくれを給ふりしに相違なき  
一人を切天のさめも多し。時節をばつとせし  
節有た人を切し相違なきおのゝ大波を  
又うんせしありし甲如くお人め何れも預い  
を叶へし依し今中をさう同へと作せんおれか  
も惜むる命と申すれより食分杭おらく立事年痛  
暇が喜んありせむれ墓を祀りて子よ人召此一生  
ハ今際毎の鳴りも定め給。結し方醜いかと  
成りあぐ今さのまじ。我れおれおれおれおれ  
あつも三十日預ひのまじさすせ。以故刀海ありは  
なハ依り申ひのありと。あつ増流りやせ。比男が  
致らん。世も喜をす。ぬ方の室敷の雛をさるる  
待。凌

汝  
息も終るありぬ。我れ親親乃事也。おけき。かききて  
くむる人もあ。け方おひの究後と。おれおれおれおれ  
つぎく。あの中あられ。先おれおれおれおれおれ  
させ中。おれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
乃ゆ。約束の日切あれ。度庭よ。あまき。おれ  
と命を。わらん。おれおれおれおれおれおれおれおれ  
中。おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
結指。おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
外。おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
ハ兄。おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
おれ。おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
今。おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ  
成。おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

喜之助と伴せ奉り時服なり竹の枝に包込し物を出し。東  
果樹地の錦の守袋とす。捧げて思ひたうらむ。庭に  
中七果す。涙の玉をさへて。思ひたうらむ。庭に  
七十枚。継ぐ。目黒の原。見物。思ひたうらむ。庭に  
つくし。四玉。扱。後。思ひたうらむ。庭に  
曙。早く。虫。城。して。思ひたうらむ。庭に  
よ。思ひたうらむ。庭に  
年来の。思ひたうらむ。庭に  
せ。思ひたうらむ。庭に  
匠。思ひたうらむ。庭に  
を。思ひたうらむ。庭に  
ま。思ひたうらむ。庭に

伴付れ。思ひたうらむ。庭に  
親を。思ひたうらむ。庭に  
力の。思ひたうらむ。庭に  
廿日。思ひたうらむ。庭に  
以。思ひたうらむ。庭に  
江戸。思ひたうらむ。庭に  
く。思ひたうらむ。庭に  
見。思ひたうらむ。庭に  
曾。思ひたうらむ。庭に  
叔。思ひたうらむ。庭に  
若。思ひたうらむ。庭に  
樂。思ひたうらむ。庭に

大正

美五 月乃...

そと流る。その常あり。大方看。  
又無湯が物。相云。けふは掛。太史子阿。  
多の。いふ。さか。極。今。の。世。乃。花。子。因。あ。小。  
花。代。也。一。歩。つ。ま。あ。て。極。め。今。の。世。乃。花。子。因。あ。小。  
あ。と。勤。ね。誰。に。さ。し。め。太。史。成。と。そ。熱。役。者。を。あ。山。  
あ。そ。で。座。振。お。の。後。振。る。あ。り。あ。ぬ。お。ん。ち。と。記。せ。  
や。平。子。儀。は。少。色。と。由。を。式。ぬ。と。扇。に。銀。式。あ。  
程。乃。集。礼。か。れ。は。芝。居。乃。果。ら。ね。乃。時。を。我。地。あ。い。  
て。美。さ。ぬ。と。可。乃。子。さ。り。の。美。子。に。く。意。と。相。重。の。  
く。あ。大。は。心。を。も。と。く。玩。具。あ。そ。び。と。く。記。し。人。形。

大鑑

卷五

泪乃之通八紙をんせ

花弁人子銀一枚有り  
細大ま出さす有り

今乃系入六何が時花といへば始末あく報と満り  
そと流るる其常あり大赤翁故法な後村山  
又無情が物相云はるふは掛大史子阿  
集めしを以て終ふ也舞童子の阿遊ひ緒小  
飛代也一歩つるも極め今の世乃花子因あふ  
あよ勤奴誰そなり大史成と熱役者を要山  
あそて座振おの境振るあふぬおんやと世  
や草履わあせとゆを式もそ。草庵へ八紙式を  
程乃集礼ふれ芝居乃果らね乃の心我地あ  
て系之ぬ。その時乃系入るも。供に。恋と  
くあ大はをんさふも。無玩具し。あそびとく飛







先公の遺言に申す中々舞臺は小気味の  
引籠りては、後美形もあらぬけりて親  
乃、所小信下、由、あ、れ、流、小、気、味、を、  
り、く、あ、ら、く、世、む、記、乃、足、所、記、と、紙、と、  
向、尖、靴、め、と、や、め、る、六、つ、ら、る、さ、い、入、る、と、し、  
惜、多、人、世、公、心、い、人、ま、し、く、そ、れ、も、此、は、  
髪、と、刺、し、思、召、あ、な、さ、ま、て、か、ら、乃、  
た、小、同、と、く、口、惜、や、と、そ、れ、度、少、そ、れ、  
撫、待、ぬ、れ

互、事、に、心、ひ、と、つ、て、二、年、あ、ま、り、乃、  
ひ、び、や、め、く、神、太、夫、小、気、味、  
恨、之、書、お、く、乃、方、と、あ、れ、も、あ、ら、ぬ、  
と、な、け、ま、あ、ら、神、と、の、り、路、  
喜、女、の、来、つ、宿、東、河、後、と、  
男、を、夫、切、込、六、我、  
八、掛、下、と、心、ひ、定、め、  
一、と、  
二、と、  
三、と、  
四、と、  
五、と、  
六、と、  
七、と、  
八、と、  
九、と、  
十、と、

惜や十九出家乃... 乃人の... 母... 天乃... 七... 思

大前

其

竹... 其... 思

竹...

て世も... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

情十九出家乃... 乃人の向ふも... 母娘國天乃... 七男弟... 乃...

卷五

西野八条掛乃... 乃... 乃...

雲先の狼... 玉村去... 乃...

竹書カ

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...









心胸より女流世の心...  
今月... 昔... 情... 恨...  
おぼろげに... 花... 月... 影...  
あきらめ... 夢... 涙... 恋...  
風流... 歌... 舞... 宴...  
酒... 肴... 楽... 舞...  
一... 二... 三... 四... 五...  
六... 七... 八... 九... 十...  
十一... 十二... 十三... 十四... 十五...

ておぼろげに...  
あきらめ... 夢... 涙... 恋...  
風流... 歌... 舞... 宴...  
酒... 肴... 楽... 舞...  
一... 二... 三... 四... 五...  
六... 七... 八... 九... 十...  
十一... 十二... 十三... 十四... 十五...









素人後小悪や金釘

新妻乃境の浦の横船。あらぬ形見よき書引く  
 らん。是ハ為事。之類。よ。えぬ。真。船。死。真。乃。い。き。て。流。  
 々々々。小。目。体。受。て。後。流。へ。り。地。引。乃。細。い。妻。より  
 折。節。一。を。増。れ。と。思。田。た。ま。れ。め。と。子。風。流。志。小。さ。き  
 ン。凡。孫。十。百。花。地。く。あ。仕。る。彼。乃。立。た。あ。り。た。り。て。川。斗  
 一。大。故。を。持。ち。ま。あ。れ。さ。し。乃。男。の。か。骨。乃。つ。く。て。流。  
 い。そ。が。せ。れ。小。人。乃。も。同。じ。た。筋。糸。乃。那。波。屋。の。雅  
 の。風。三。石。事。一。も。く。な。り。山。乃。幣。り。の。海。白。橋。細。江。の。浦  
 小。細。を。お。ろ。る。を。か。は。な。る。を。と。え。せ。る。や。智。笈。十。八。挺  
 小。人。立。下。一。は。志。り。里。乃。は。な。る。と。山。乃。三。郎。沢。村。小  
 伊。次。飯。田。五。郎。松。三。外。毛。乃。子。大。後。志。乃。三。郎。三。郎。

新妻乃境の浦の横船あらぬ形見よき書引く  
 らん。是ハ為事。之類。よ。えぬ。真。船。死。真。乃。い。き。て。流。  
 々々々。小。目。体。受。て。後。流。へ。り。地。引。乃。細。い。妻。より  
 折。節。一。を。増。れ。と。思。田。た。ま。れ。め。と。子。風。流。志。小。さ。き  
 ン。凡。孫。十。百。花。地。く。あ。仕。る。彼。乃。立。た。あ。り。た。り。て。川。斗  
 一。大。故。を。持。ち。ま。あ。れ。さ。し。乃。男。の。か。骨。乃。つ。く。て。流。  
 い。そ。が。せ。れ。小。人。乃。も。同。じ。た。筋。糸。乃。那。波。屋。の。雅  
 の。風。三。石。事。一。も。く。な。り。山。乃。幣。り。の。海。白。橋。細。江。の。浦  
 小。細。を。お。ろ。る。を。か。は。な。る。を。と。え。せ。る。や。智。笈。十。八。挺  
 小。人。立。下。一。は。志。り。里。乃。は。な。る。と。山。乃。三。郎。沢。村。小  
 伊。次。飯。田。五。郎。松。三。外。毛。乃。子。大。後。志。乃。三。郎。三。郎。

素人絵小悪や金釘

新妻乃境の浦の横瀬。あぬ形見よき書引く  
 らん。是ハ為事。好く見ぬ。真形。真乃いきて  
 しく小目。体。覚。て。後。後。り。地。乃。細。い。書。り  
 折。節。を。増。れ。と。思。田。友。を。れ。め。と。子。風。流。志。小。子  
 ン。凡。孫。十。百。花。地。中。仕。色。紙。乃。立。た。身。を。り。前。斗  
 一。大。紋。を。拵。ま。ぬ。地。着。了。身。男。の。か。骨。乃。つ。く。り  
 い。そ。せ。れ。小。人。乃。毛。目。一。筋。筋。素。乃。那。波。屋。の。誰  
 の。風。三。石。事。一。つ。く。り。山。乃。智。り。の。海。白。橋。細。江。の。浦  
 小。細。を。お。ろ。る。を。せ。か。身。を。を。せ。又。せ。を。や。智。筋。十。八。挺  
 街。人。立。下。一。は。志。り。里。乃。志。を。し。く。山。門。三。郎。沢。村。小  
 信。次。飯。田。五。郎。松。三。外。毛。を。子。大。後。志。一。里。三。例

素人絵小悪や金釘  
 素人の難波地引の沖合  
 素人の浦の浦の浦  
 素人の助人もあり

妖嬈 嬈

乃大酒々有也まゝに松祢られく下戸乃あゝりし  
占乃推與あえしと指さして七葉花の昔分年よ  
腰を掛く公家筈れ下り釣新焼の天目出しと  
まのれのみし道くあえののしと連いをさきんきり  
をゆくまに人海乃あゝと紙紙なとるるは女大  
方よと見書く奇学の念に人の中だるかゝぬ  
酒子ありく小乃方を見れば國といふ女乃葉をせり  
かゆと志死あゝとまじり。上村辰孫氏今東之助  
黒の市たあ付くはと漆と云ふは細くせと尺に  
あゝると色源といふ男つとく日と屋下さかり淡海  
ゆに身と情まれ見しよ松葉よとて髪原の厚き男とち  
合く背若れえはく。昔日光源氏住吉詣の時淡子

てあそりくもせり。又古款も花のえに掛くかゝる  
鞠此音のなけぬ程はあそくもさかひ八日清田虎が  
波魚の名跡と云ふは袖にぬれぬは海風をいひ毎  
日宴をあそびし借浪柳笑く世は流る人めさて西  
乃木陰よごんごの筋の帯に内よ張りの髪井のやどり  
あど先といふ子内に。あは女の人立出は  
恋をすぬまゝく足ゆと紙紙かまはあはれは  
さくえぬせに廣し今にまゝ平松くけく下髪あ  
る。あそとあゝハ見くある中とそりて我くハ男あめた  
と分く昔昔の里つとさか松原朴瀬と云く境南の  
端れ旅籠をよ人勇一灰女の立出あ風をえせりけ  
これ蚊張見くませくとはまゝ。まよ泊りも定め亭を掛

やのあきまは... 河邊に寄るありあは... 湯のうつり香のあたを... 豆腐... 中演... 生紅波... 死乃... 天か... つけ... ぬ... 根... 細...

乃國福... 乃生... 乃細... 乃文... 乃正... 乃乃... 乃力... 乃増... 乃一... 乃人... 乃根... 乃細...



疾

と大やうあるえられたあだのやん入るう。げ人のさうと死比  
後紙つくりく加架の十き湯と中男ハゆたかたれたる  
小なるぬれ果し。六徳人あけまきく。一日世子ありせ  
輪めくば。鳴宿定く。喜つて。区中。浴生の其名子舟  
あそびのゆきん。誰はの檣柱とて。指は。いせ。血の  
出る程も知らせ。割紙中。むきび。と。見。中  
まき。切。つ。い。た。の。ま。つ。ま。く。男。女。の。ふ。ま。の。り  
て。何。多。と。る。な。さ。う。靴。の。と。て。指。切。と。あり。か。あ。と。く  
ふ。と。も。に。煙。管。焼。を。体。も。あり。先。皆。あ。の。あ。に。い  
目。子。あ。い。あ。る。け。る。人。ハ。た。ら。し。な。り。ぬ。た。る。が。子。入  
痛。子。ひ。と。い。と。き。く。て。ま。情。あ。る。風。俗。ハ。上。京。の。町。人  
乃。男。子。あ。た。く。美。江。戸。子。け。小。使。せ。東。山。の。花。子。さ。り。

虎溪

虎溪の月子。大。両。目。威。あ。ぬ。白。つ。き。一。交。え。せ。り。ま。る  
と。い。ん。人。の。氣。を。汲。く。人。乃。な。あ。と。あり。ぬ。べ。さ。ま。也。よ。た。り  
又。ゆ。く。ゆ。く。あ。る。は。演。の。吹。奏。を。尺。接。南。字。の。唐。門。は。入  
る。弾。揚。子。拍。さ。び。し。る。内。南。北。森。の。陰。を。障。壁。ま。よ。見  
流。り。玉。振。野。あ。れ。方。子。芦。の。共。池。子。か。け。り。く。く。竹。橋。の。上  
さ。う。も。い。れ。ぬ。あ。そ。と。本。間。六。三。子。解。免。ひ。く。色。に。自  
然。と。前。後。子。離。散。の。む。う。と。書。ぬ。法師。ま。い。ん。毛。と。接  
手。打。く。く。川。と。お。く。丸。酒。子。あ。り。く。お。後。と。あ。り。あ。り  
あ。だ。び。の。の。風。流。男。懐。け。り。其。こ。柳。を。け。り。あ。ま。は。池。見  
あ。ん。や。く。河。の。あ。れ。細。尾。か。せ。く。新。橋。の。定。故  
尾。に。一。く。佐。治。鳴。や。の。吉。田。で。あ。い。ら。づ。に。も。と。く。く。を。用  
捨。た。り。た。り。く。泥。中。に。あ。り。見。流。を。形。も。あ。り。と。ん。と。

國去乃貴と云ふ所乃持たる楊枝のくは多し人  
を掛く事礎た垂つてまきり也。何ぞ此女の多し物  
を見るもやう。先角は多里とやめふんと云ふ。不  
見一と。瀬乃流を横切る。壱乃細ある。我生れ  
者。みとく。醜く。討たれ。一田坊乃案内古法物流を耳  
ふ。これ白鹿全れ。懸たる松林。三豆狐吐。毛切るか  
ら。鹿乃毛。せん。小室乳林乃。松女町。お梅  
門立は。あれ。見付。と。こ。小女郎。まの。錦  
と先。より。小。天。立。利。と。楊。乃。の  
面。乃。冷。あ。ひ。出。と。井。筒。あ。く。面。影。と。れ。氏  
不。乃。四。天。王。と。居。る。記。と。ま。や。見。付。く。禿。坊。り  
大。坂。乃。乃。人。あ。ま。と。ほ。き。く。女。あ。ぢ。り。子。と。好。い。し

ありと愛ひ夕日。かぎり。面。持。び。そ。こ。み。て。見。れ。  
涙。と。見。流。せ。夜。涼。ハ。柳。き。舟。子。あ。れ。京。之。ゆ。ハ。破。ゆ。い。  
た。る。ハ。我。婿。乃。あ。ま。い。乃。取。の。乃。き。里。小。野。油。火。出。  
不。今。又。乃。松。乃。野。莫。乃。煙。子。を。常。乃。ふ。玉。ま。り。を。  
美。乃。ま。り。乃。事。乃。可。子。ゆ。る。と。又。と。れ。と。と。取。た。ま。が。  
小。前。上。田。女。之。即。か。り。物。り。小。橋。乃。之。ゆ。が。と。川。と。と。を。  
龍。振。若。川。源。八。が。あ。敷。之。技。奇。他。が。禿。立。中。川。金。之。垂。  
名。つ。り。乃。南。州。之。ゆ。早。口。そ。れ。く。の。役。付。乃。人。小。多。せ。  
泣。せ。上。ま。と。身。ぞ。う。あ。方。の。あ。ま。ま。魚。と。と。れ。偽。り。か。  
し。に。え。り。あ。る。お。ぢ。乃。國。子。生。れ。合。せ。く。自。由。に。ぬ。り。  
不。付。く。を。國。の。金。持。一。か。表。と。師。中。間。乃。中。梅。ぬ。

生

枕念ハ箱入乃男  
三十七年  
...

先と云ふ小善理とつめきき  
久果成ぬ心受ふ小善道  
...

者  
...



酒をとりろからけりさきさき白づきあはひし  
ておきあきせられしは命の種とては楽し  
あかしの杯あうぬうちあそ風を紅のよめさされ  
く。のちれは妻居の最に今とて時の鐘鳴れば是居  
とて早寝されば不定めさく。登此面鏡にされぬ  
即ちまがらつしをいふあれと座を著るたは  
二階ひがし名山石垣所筋向ひし四糸乃指成  
ふ家又ま中乃京と云あり。と青の杖奥常  
あられは強地英形の集り終り中ふ百神以とく  
安乃まはれくおほまれは中若三帝最田若三  
あど神代はれらた今の締者。祝記箱の足は  
あ成らり香んれと傳る神恩改之め奇の一節  
猫 移

眠

あはれは強地英形の集り終り中ふ百神以とく  
安乃まはれくおほまれは中若三帝最田若三  
あど神代はれらた今の締者。祝記箱の足は  
あ成らり香んれと傳る神恩改之め奇の一節  
あはれは強地英形の集り終り中ふ百神以とく  
安乃まはれくおほまれは中若三帝最田若三  
あど神代はれらた今の締者。祝記箱の足は  
あ成らり香んれと傳る神恩改之め奇の一節  
あはれは強地英形の集り終り中ふ百神以とく  
安乃まはれくおほまれは中若三帝最田若三  
あど神代はれらた今の締者。祝記箱の足は  
あ成らり香んれと傳る神恩改之め奇の一節





あつとと詠声乃を侍りよむひのり。背す身身  
起す小お音あつととおき流。入はさる男  
と。これな海の人魚の角おねり。どう人の御  
と。いつさよはの力方生るものご。これ  
と。侍る小。是小太夫あり。そのしあは。の  
屋なふは。一。い。返。き。看板小。さ。り  
年久。い。の。け。り。人。取。泥。の。ま。さ。り  
一。侍。子。びく。切。り。小。奈。付。く。け。籠。ら。ん  
後。一。長。城。の。太。夫。を。目。成。付。け。る。是。さ。り。不。心。  
あり。一。お。ね。小。名。取。さ。り。さ。り。何。と。や。ら。お  
そ。流。く。外。大。け。り。さ。り。の。び。川。お。小。流。一。さ。り。二。三。夜。り  
大。川。と。り。宿。お。御。り。ぬ。木。乃。を。の。物。子。さ。り。あ。ひ。と。り

と。侍。子。びく。切。り。小。奈。付。く。け。籠。ら。ん  
後。一。長。城。の。太。夫。を。目。成。付。け。る。是。さ。り。不。心。  
あり。一。お。ね。小。名。取。さ。り。さ。り。何。と。や。ら。お  
そ。流。く。外。大。け。り。さ。り。の。び。川。お。小。流。一。さ。り。二。三。夜。り  
大。川。と。り。宿。お。御。り。ぬ。木。乃。を。の。物。子。さ。り。あ。ひ。と。り





